

# **多古町公共交通体系調査 報告書**

**平成 29 年 10 月**

**多古町**



# 目 次

1章 多古町の現状 .....	1
1. 人口・世帯数の動向 .....	2
2. 主要公共施設の立地状況 .....	14
2章 多古町の公共交通の現状 .....	17
1. 各公共交通機関の運行・利用・収支状況等 .....	18
2. 循環バスと路線バス等の乗り継ぎ状況 .....	30
3. 多古町の公共交通の現状（まとめ） .....	34
3章 公共交通における課題・ニーズの把握 .....	35
1. 町民アンケート調査 .....	36
2. バス乗降者向け調査（循環バス・シャトルバス） .....	82
3. 多古工業団地内対象アンケート調査 .....	102
4. アンケート調査結果の整理・分析 .....	110
参考資料 .....	121
1. 町民アンケート調査票 .....	122
2. 多古町循環バス利用者アンケート票 .....	134
3. シャトルバス利用者アンケート票 .....	136
4. 通勤者アンケート票 .....	138
5. 工業団地エリア事業者アンケート票 .....	139



# 1章 多古町の現状

# 1. 人口・世帯数の動向

## (1) 人口動向

### ①人口数の推移

多古町の人口は1995年の18,201人をピークとして、その後は減少に転じている。直近の国勢調査（2015年10月）時点における人口数は14,724人で、5年前の前回調査比1,278人の減少で、この間の減少率は8.0%に達している。2000年以降、減少数は増加、減少率の幅は拡大の傾向にある。

人口を年齢別に分けてみると、0-14歳人口（年少人口）と15-64歳人口（生産年齢人口）は近年減少を続けている一方で、65歳以上人口（老年人口）は増加を続けている。総人口が減少する中で65歳以上人口は増加しているため、全体に占めるこの年齢層の構成比は上昇傾向にある。逆に0-14歳、15-64歳人口の比率は趨勢的に低下している。

1990年と2015年の人口ピラミッドを比較してみると、2015年の方が高い年齢層に厚いピラミッドとなっており、この25年の間に、50歳代以下の年齢層が明らかに減少していることがわかる。若年層の減少基調が続く現状のまま推移すると、今後更なる人口減少、高齢化が進むことが予想される。

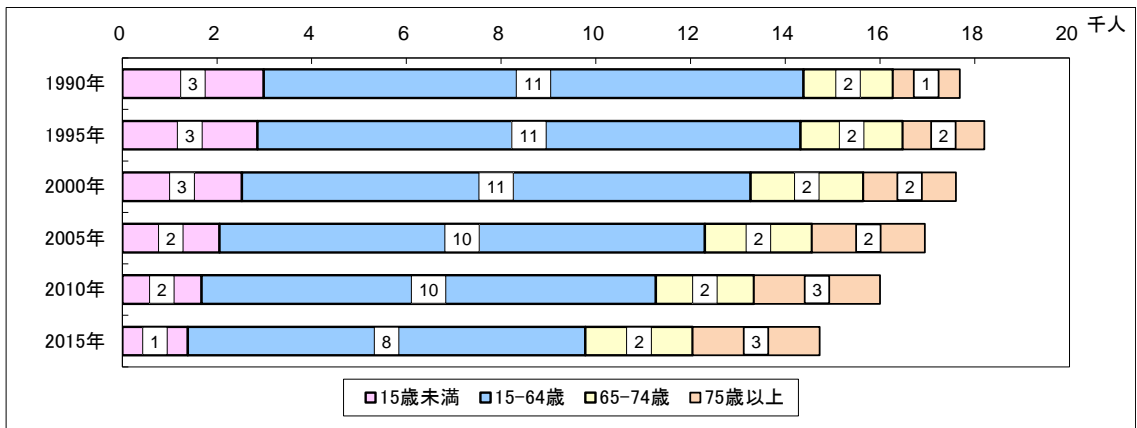
### ◇総人口・年齢別人口・年齢別人口構成比の推移 資料：「国勢調査」（総務省）

	1990年	1995年	2000年	2005年	2010年	2015年
総数	17,683	18,201	17,603	16,950	16,002	14,724
増減数	—	518	▲ 598	▲ 653	▲ 948	▲ 1,278
増減率	—	2.9%	-3.3%	-3.7%	-5.6%	-8.0%

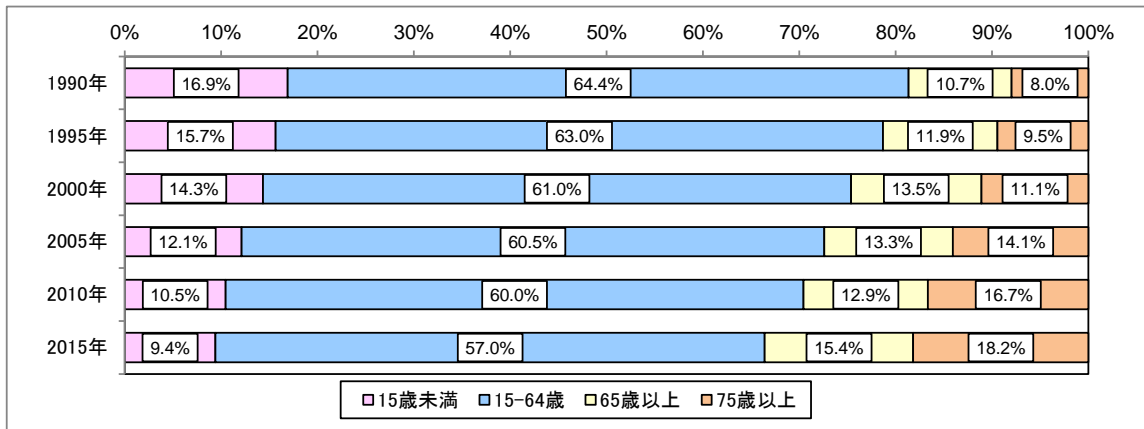
	1990年	1995年	2000年	2005年	2010年	2015年
0-14歳人口	2,990	2,852	2,525	2,053	1,674	1,387
15-64歳人口	11,394	11,471	10,740	10,248	9,596	8,391
65-74歳人口	1,886	2,158	2,383	2,262	2,067	2,266
75歳以上人口	1,413	1,720	1,954	2,386	2,665	2,680

0-14歳人口比率	16.9%	15.7%	14.3%	12.1%	10.5%	9.4%
15-64歳人口比率	64.4%	63.0%	61.0%	60.5%	60.0%	57.0%
65-74歳人口比率	10.7%	11.9%	13.5%	13.3%	12.9%	15.4%
75歳以上人口比率	8.0%	9.5%	11.1%	14.1%	16.7%	18.2%

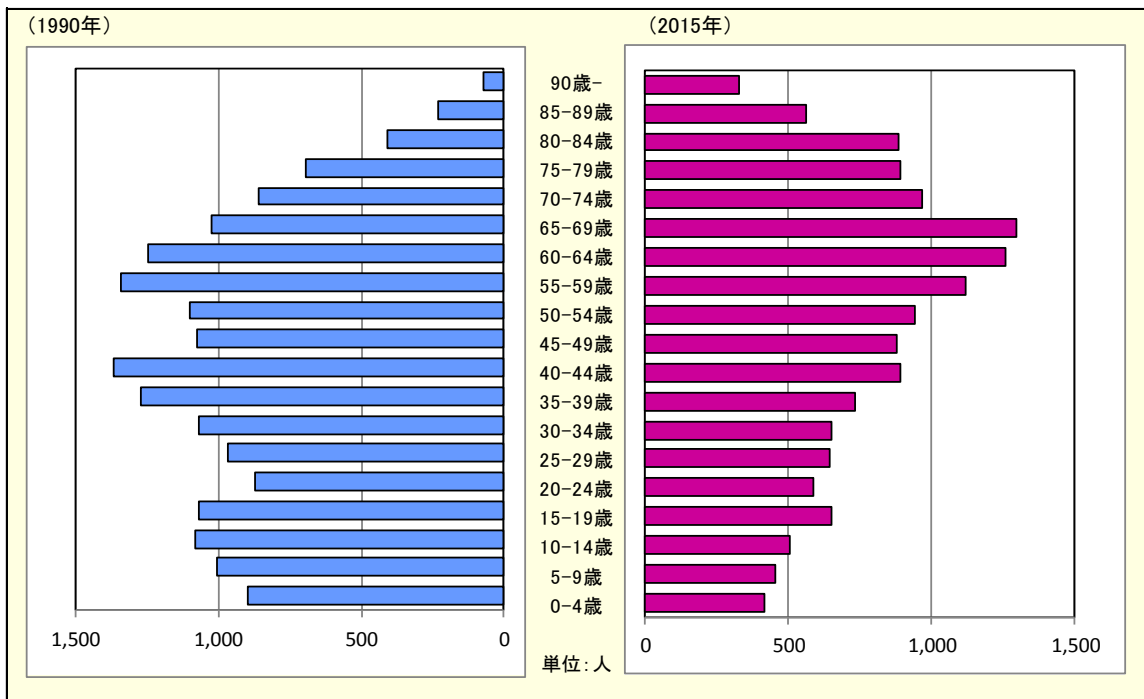
◇年齢別人口の推移 資料：「国勢調査」（総務省）



◇年齢別人口構成比の推移 資料：「国勢調査」（総務省）



◇1990年と2015年の人口ピラミッド 資料：「国勢調査」（総務省）



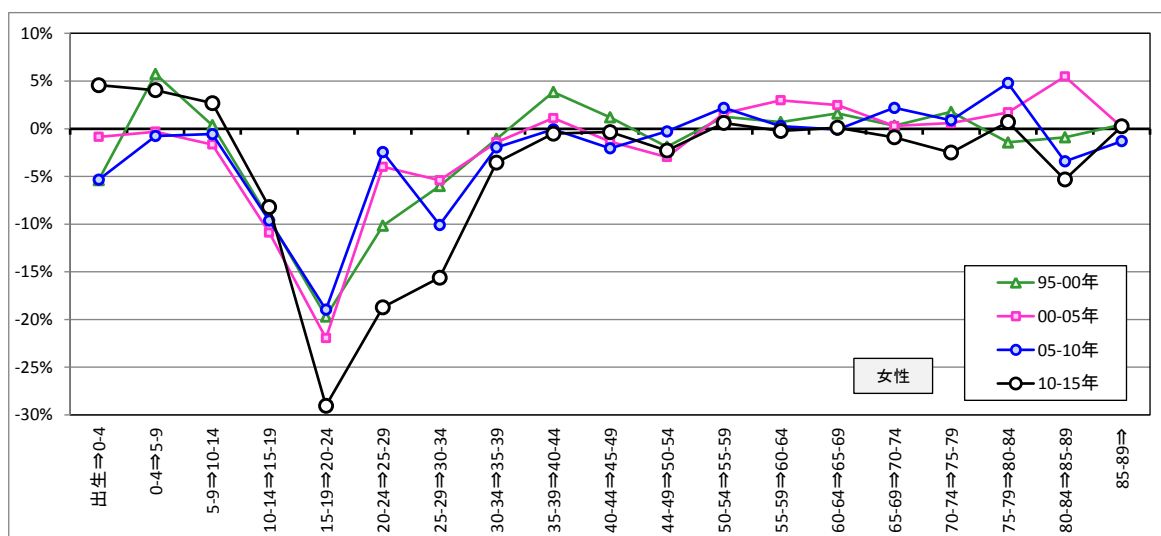
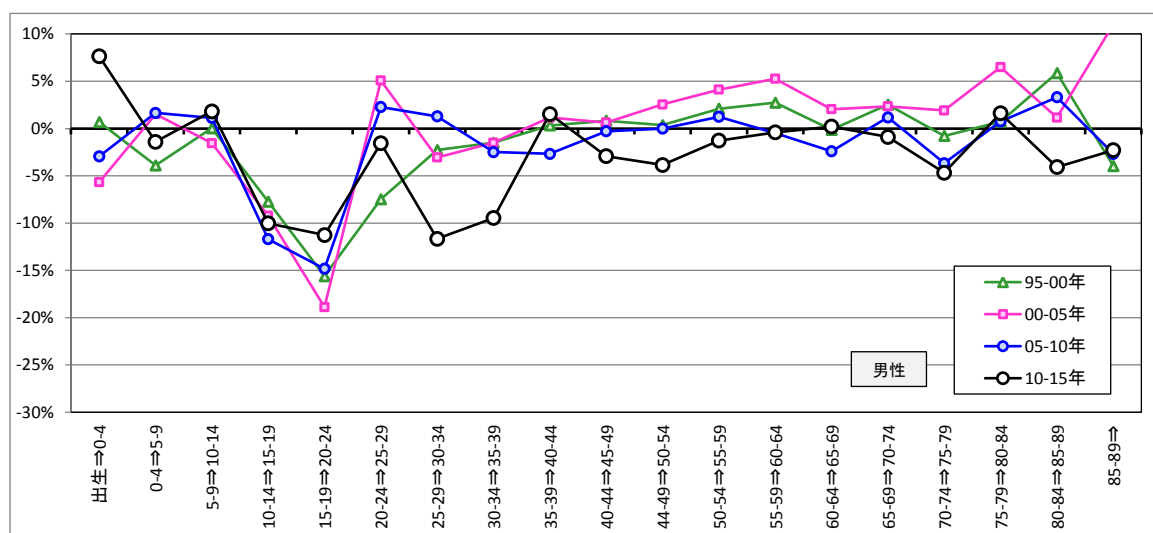
地域の人口は、社会動態（移動）と自然動態（出生・死亡）という要素により変動する。このうち死亡の動向については地域による大きな差異はない。以下で、多古町の人口増減に影響を及ぼす、近年の移動と出生の推移について分析する。

## ②移動動向の推移

「多古町への転入数」を「多古町からの転出」で除した数値を「純移動率」と称し、この比率が高いと転入数が転出数を上回り人口は増加、逆に下回ると人口は減少することになる。

多古町の純移動率の推移を年齢別にみると、若年層でマイナス幅が大きいという特徴がみとれる。特に、主に高等学校卒業の時期にあたる15-19歳から20-24歳での落ち込み幅が大きく、この年齢層での転出が多いことがわかる。時系列でみると、直近の5年間で特に女性の比率が低下していること、及び20歳代から30歳代にかけてのマイナス幅が拡大していること、の2点が特徴的な動きだといえる。

◇5年毎の純移動率の推移（男女別） 資料：「国勢調査」（総務省）より作成



(注)「0-4⇒5-9」は、「0~4歳の年齢層」の人が「5~9歳の年齢層」になる間（5年間）に移動した数を示す。



### ③出生動向の推移

過去の多古町と近隣自治体、及び千葉県全体の合計特殊出生率\*の推移をみてる。

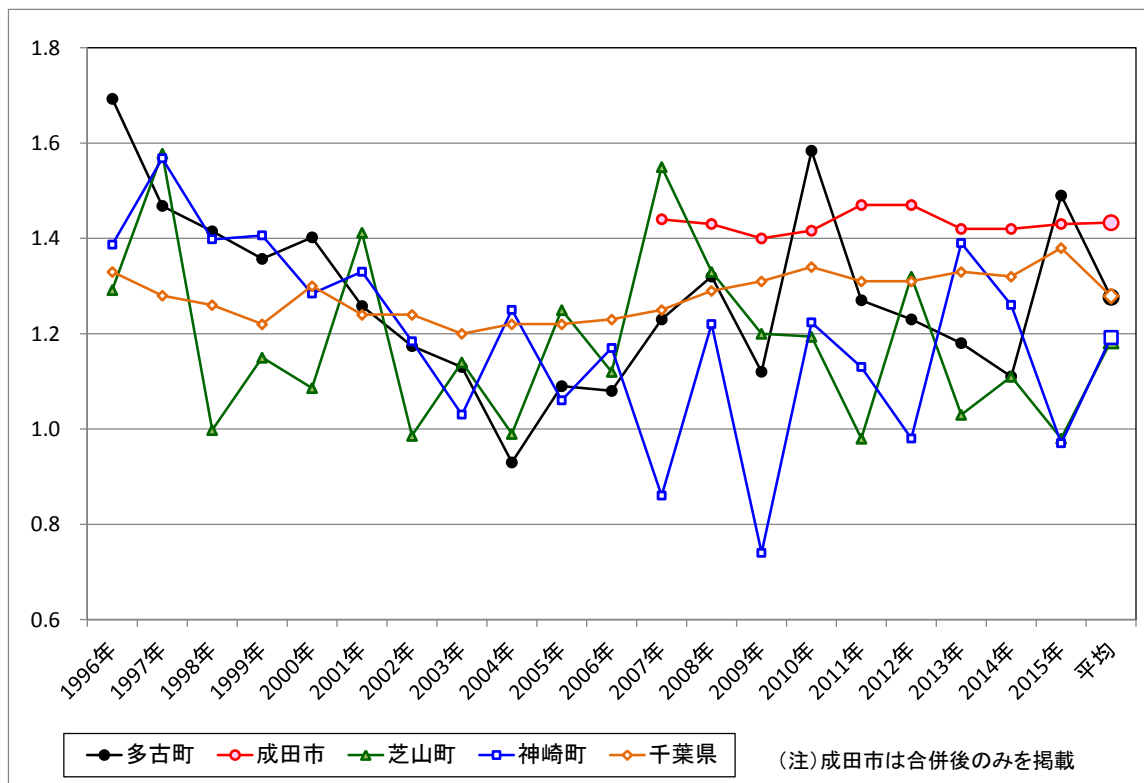
多古町は人口数が少ないため、合計特殊出生率は年ごとの変動幅が大きく（同じく人口数が少ない芝山町、神崎町も同様）、趨勢的な傾向を見出すのは難しいが、過去20年の出生率は概ね1.0～1.6で推移しており、この間の平均は1.28となっている。

この水準は、母数が相対的に大きく安定的に推移している成田市の平均値1.43を下回るが、芝山町（1.18）や神崎町（1.19）を上回っており、また千葉県全体（1.28）と同じ値となっている。多古町の出生率は県内では平均的な水準にあると考えられる。

「出生率」という要素は、多古町の人口変動に影響を与えていないといえる。ただし、「率」は同程度でも、出生数は「出生率」と「母親となる若年層の数」の積で算出されるため、若年層の減少は出生数の人口減少の要因になっているといえる。

#### ◇多古町と近隣自治体、千葉県全体の合計特殊出生率の推移

資料：「市町村別合計特殊出生率」（千葉県）



若年層の減少は、単純な人口減少という面だけでなく、出生数の減少にもつながり、人口減少にダブルで影響を与える。

以上のことから、近年の多古町で生起している「人口減少」の主な要因は、「若年層の純移動率の低さ」、すなわち「若年層の転出傾向の強さ」だといえる。

\* 出産可能年齢（15～49歳）の女性に限定し、各年齢ごとの出生率を足し合わせ、一人の女性が生涯、何人の子供を産むのかを推計したもの。

## (2) 世帯動向

多古町の世帯数は、2010年まで増加を続けていたが、その後わずかながらも減少に転じており、直近2015年の世帯数は5,053世帯となっている。

### ◇世帯数の推移 資料：「国勢調査」(総務省)

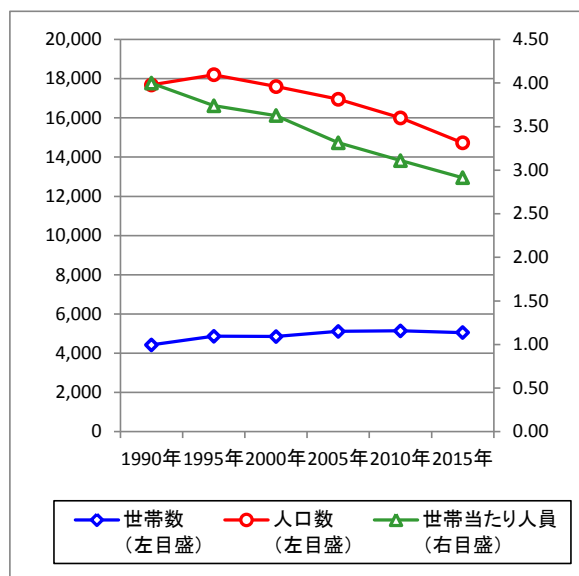
	1990年	1995年	2000年	2005年	2010年	2015年
世帯数	4,422	4,867	4,853	5,114	5,145	5,053
増減数	—	445	-14	261	31	-92
増減率	—	10.1%	-0.3%	5.4%	0.6%	-1.8%
世帯あたり人員	4.00	3.74	3.63	3.31	3.11	2.91

人口は1995年にピークを迎え、その後減少に転じているが、世帯数は直近では若干の減少となっているもののそれまでは緩やかな増加基調を保ってきた。この背景には世帯あたり人員数が減少していることがある。

多古町の世帯あたり人員は1990年の4.00人から2015年には2.91人へ、25年間で1.09人減少している。ただしこれは全県的な傾向であり、千葉県や近隣自治体でも等しくこの数値は一貫して低下が続いている。そうした中で多古町の世帯あたり人員は、低下傾向にあるものの、千葉県や成田市のそれを大きく上回る水準で推移している。

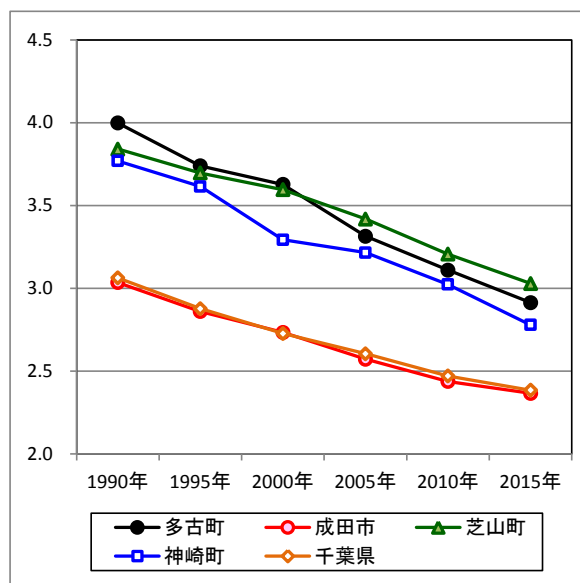
### ◇人口数・世帯数・世帯あたり人員の推移

資料：国勢調査(総務省)



### ◇多古町と近隣自治体等の世帯あたり人員の推移

資料：国勢調査(総務省)



多古町と千葉県全体の 2015 年の一般世帯の家族類型別世帯数とその構成比は以下のとおりである。

◇多古町と千葉県全体の一般世帯の家族類型別区分（2015 年）

資料：「国勢調査」（総務省）

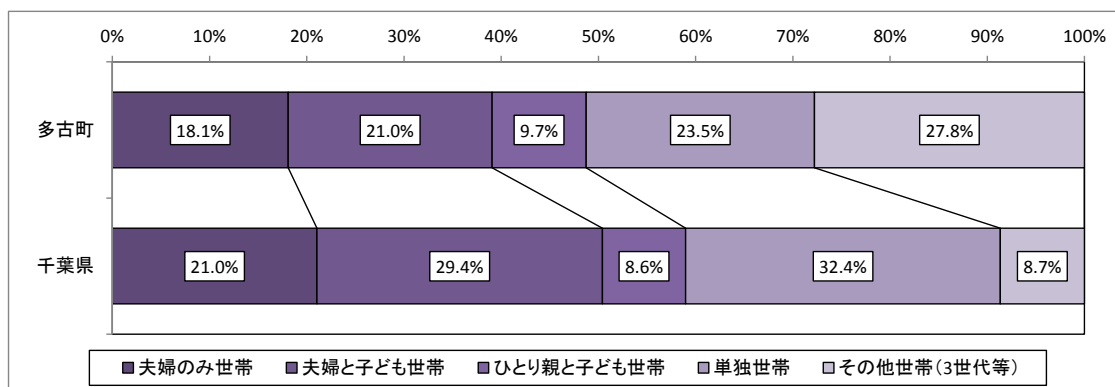
【多古町】	一般世帯数	（構成比）	一般世帯人員	（構成比）	世帯あたり人員
一般世帯総数	5,034	100.0%	14,406	100.0%	2.86
夫婦のみ世帯	911	18.1%	1,822	12.6%	2.00
夫婦と子ども世帯	1,055	21.0%	3,762	26.1%	3.57
ひとり親と子ども世帯	488	9.7%	1,089	7.6%	2.23
単独世帯	1,182	23.5%	1,182	8.2%	1.00
その他世帯(3世代等)	1,398	27.8%	6,551	45.5%	4.69

【千葉県】	一般世帯数	（構成比）	一般世帯人員	（構成比）	世帯あたり人員
一般世帯総数	2,604,839	100.0%	6,118,171	100.0%	2.35
夫婦のみ世帯	548,009	21.0%	1,096,018	17.9%	2.00
夫婦と子ども世帯	765,446	29.4%	2,765,469	45.2%	3.61
ひとり親と子ども世帯	222,830	8.6%	521,658	8.5%	2.34
単独世帯	843,071	32.4%	843,071	13.8%	1.00
その他世帯(3世代等)	225,483	8.7%	891,955	14.6%	3.96

（注）「一般世帯」とは、総世帯数から「施設等の世帯（寮・寄宿舎の学生・生徒、病院・療養所の入院者、社会施設の入所者等）」を除外した世帯

多古町では 3 世代世帯を含む「その他世帯」が 27.8%を占め、千葉県全体の 8.7%を大きく上回っている。逆に単独世帯は 23.5%で、千葉県の 32.4%を大きく下回っている。「夫婦のみ」「夫婦と子ども」といった核家族世帯の構成比も千葉県より低い。「その他世帯」の平均人員数は、千葉県全体の 3.96 人に対して多古町は 4.69 人と 0.73 人も多い。多古町では相対的にみて 3 世代世帯等の大家族が多く、かつその人員が多いことが、世帯あたり人員数が多い要因であることがわかる

◇多古町と千葉県全体の家族類型別一般世帯数構成比の比較 資料：「国勢調査」（総務省）



### (3) 人口分布状況

#### ①地区別の人口分布

平成 27 年の地区別の人口分布をみると、「多古地区」が 17.0%と最も多く、「飯笹地区 (8.6%)」、「北中・南和田地区 (7.7%)」、「十余三地区 (7.0%)」、「南中地区 (6.2%)」と続いている。(平成 22 年の上位 5 地区から変動なし)

平成 22 年から平成 27 年にかけての人口増減の推移をみると、「中村新田・南並木地区」を除くすべての地区で減少している。最も減少率の高い地区は「川島地区」の-15.5%であり、以下、「五反田・林地区 (-15.2%)」、「水戸地区 (-14.3%)」、「次浦地区 (-13.4%)」、「十余三地区 (-12.8%)」の順になっている。

なお、「多古地区」は、多古台の住宅開発による人口増 (157 人) が寄与し、同地区の減少率は-1.5%にとどまっている。

#### ◇地区別の人口分布と推移状況

資料：「国勢調査」(総務省)

地区名	平成22年		平成27年		増減(平成22-27年)	
	総数	割合	総数	割合	総数	割合
多古 (うち多古台)	2,545 (0)	15.9%	2,506 (157)	17.0%	-39 (157)	-1.5%
島	371	2.3%	341	2.3%	-30	-8.1%
水戸	428	2.7%	367	2.5%	-61	-14.3%
五反田・林	250	1.6%	212	1.4%	-38	-15.2%
喜多	535	3.3%	488	3.3%	-47	-8.8%
染井	575	3.6%	537	3.6%	-38	-6.6%
船越	625	3.9%	566	3.8%	-59	-9.4%
牛尾	323	2.0%	297	2.0%	-26	-8.0%
飯笹	1,423	8.9%	1,264	8.6%	-159	-11.2%
間倉	130	0.8%	115	0.8%	-15	-11.5%
一鍬田	179	1.1%	165	1.1%	-14	-7.8%
次浦	320	2.0%	277	1.9%	-43	-13.4%
西古内	186	1.2%	164	1.1%	-22	-11.8%
御所台	137	0.9%	122	0.8%	-15	-10.9%
井戸山	247	1.5%	217	1.5%	-30	-12.1%
高津原	663	4.1%	631	4.3%	-32	-4.8%
大高・大門	418	2.6%	388	2.6%	-30	-7.2%
檜木	110	0.7%	101	0.7%	-9	-8.2%
出沼	249	1.6%	222	1.5%	-27	-10.8%
本三倉	253	1.6%	224	1.5%	-29	-11.5%
谷三倉	192	1.2%	178	1.2%	-14	-7.3%
十余三	1,179	7.4%	1,028	7.0%	-151	-12.8%
川島	142	0.9%	120	0.8%	-22	-15.5%
東松崎	566	3.5%	506	3.4%	-60	-10.6%
坂	261	1.6%	234	1.6%	-27	-10.3%
方田	298	1.9%	273	1.9%	-25	-8.4%
南玉造	831	5.2%	732	5.0%	-99	-11.9%
南中	942	5.9%	907	6.2%	-35	-3.7%
北中・南和田	1,203	7.5%	1,130	7.7%	-73	-6.1%
南借当	147	0.9%	138	0.9%	-9	-6.1%
中村新田・南並木	274	1.7%	274	1.9%	0	0.0%
合計	16,002	100.0%	14,724	100.0%	-1,278	-8.0%

## ②地区別の年齢3区分別人口

次に、平成27年の地区別の年齢3区分別人口をみる。

町全体の65歳以上人口割合(33.6%)を上回っているのは、全31地区のうち17地区ある中で、「方田地区」の66.3%が最も高く、「間倉地区(45.2%)」、「次浦地区(44.8%)」、「川島地区(41.7%)」、「御所台地区(41.0%)」と続く。

他方、65歳以上人口割合が低いのは、「大高・大門地区(25.3%)」、「檜木地区(26.7%)」、「染井地区(27.0%)」、「北中・南和田地区(27.4%)」、「高津原地区(30.0%)」の順となっている。

多古台では若年層の転入が多いため、15歳未満が31.2%、15-64歳が65.0%、65歳以上が3.8%という年齢別人口構成となっている。

### ◇地区別の年齢3区分別人口と割合

資料：「国勢調査」(総務省)

地区名	総数	年齢3区分			年齢3区分(割合)		
		15歳未満	15-64歳	65歳以上	15歳未満	15-64歳	65歳以上
多古 (うち多古台)	2,501 (157)	267 (49)	1,429 (102)	805 (6)	10.7% (31.2%)	57.1% (65.0%)	32.2% (3.8%)
島	341	28	189	124	8.2%	55.4%	36.4%
水戸	356	25	203	128	7.0%	57.0%	36.0%
五反田・林	212	14	122	76	6.6%	57.5%	35.8%
喜多	488	41	278	169	8.4%	57.0%	34.6%
染井	534	61	329	144	11.4%	61.6%	27.0%
船越	566	55	315	196	9.7%	55.7%	34.6%
牛尾	297	21	177	99	7.1%	59.6%	33.3%
飯笹	1,258	105	741	412	8.3%	58.9%	32.8%
間倉	115	7	56	52	6.1%	48.7%	45.2%
一鞆田	165	6	102	57	3.6%	61.8%	34.5%
次浦	277	24	129	124	8.7%	46.6%	44.8%
西古内	164	16	96	52	9.8%	58.5%	31.7%
御所台	122	12	60	50	9.8%	49.2%	41.0%
井戸山	217	21	127	69	9.7%	58.5%	31.8%
高津原	631	56	386	189	8.9%	61.2%	30.0%
大高・大門	387	59	230	98	15.2%	59.4%	25.3%
檜木	101	9	65	27	8.9%	64.4%	26.7%
出沼	220	16	123	81	7.3%	55.9%	36.8%
本三倉	224	14	124	86	6.3%	55.4%	38.4%
谷三倉	178	12	96	70	6.7%	53.9%	39.3%
十余三	1,028	82	620	326	8.0%	60.3%	31.7%
川島	120	10	60	50	8.3%	50.0%	41.7%
東松崎	506	38	281	187	7.5%	55.5%	37.0%
坂	234	21	125	88	9.0%	53.4%	37.6%
方田	273	8	84	181	2.9%	30.8%	66.3%
南玉造	732	65	392	275	8.9%	53.6%	37.6%
南中	903	99	522	282	11.0%	57.8%	31.2%
北中・南和田	1,130	140	680	310	12.4%	60.2%	27.4%
南借当	138	17	76	45	12.3%	55.1%	32.6%
中村新田・南並木	274	35	155	84	12.8%	56.6%	30.7%
合計	14,692	1,384	8,372	4,936	9.4%	57.0%	33.6%

※年齢不詳32名を除く(多古5、五反田・林11、染井3、飯笹6、大高・大門1、出沼2、南中4)

### ③地区別の世帯分布

平成 27 年の世帯分布は、人口分布とおおむね比例しており、「多古地区（17.9%）」、「飯笹地区（8.1%）」、「十余三地区（6.9%）」、「南中地区（6.6%）」、「北中・南和田地区（6.2%）」が上位を占める。

平成 27 年の世帯数を平成 22 年と比較すると、町全体で－1.8%と若干の減少が見られる。地区別で減少率が最も高いのは、「水戸地区（－11.3%）」。以下、「飯笹地区（－9.9%）」、「十余三地区（－9.6%）」、「方田地区（－8.2%）」、「井戸山地区（－6.9%）」と続いている。

#### ◇地区別の世帯分布と推移状況

資料：「国勢調査」（総務省）

地区名	平成22年		平成27年		増減(平成22-27年)	
	世帯数	割合	世帯数	割合	世帯数	割合
多古 (うち多古台)	872 (0)	16.9%	904 (47)	17.9%	32 (47)	3.7%
島	102	2.0%	103	2.0%	1	1.0%
水戸	168	3.3%	149	2.9%	-19	-11.3%
五反田・林	65	1.3%	66	1.3%	1	1.5%
喜多	161	3.1%	156	3.1%	-5	-3.1%
染井	196	3.8%	194	3.8%	-2	-1.0%
船越	170	3.3%	172	3.4%	2	1.2%
牛尾	101	2.0%	97	1.9%	-4	-4.0%
飯笹	455	8.8%	410	8.1%	-45	-9.9%
間倉	171	3.3%	173	3.4%	2	1.2%
一畝田	61	1.2%	57	1.1%	-4	-6.6%
次浦	98	1.9%	101	2.0%	3	3.1%
西古内	52	1.0%	53	1.0%	1	1.9%
御所台	41	0.8%	41	0.8%	0	0.0%
井戸山	87	1.7%	81	1.6%	-6	-6.9%
高津原	153	3.0%	154	3.0%	1	0.7%
大高・大門	209	4.1%	219	4.3%	10	4.8%
檜木	35	0.7%	37	0.7%	2	5.7%
出沼	89	1.7%	87	1.7%	-2	-2.2%
本三倉	71	1.4%	69	1.4%	-2	-2.8%
谷三倉	48	0.9%	49	1.0%	1	2.1%
十余三	385	7.5%	348	6.9%	-37	-9.6%
川島	21	0.4%	23	0.5%	2	9.5%
東松崎	163	3.2%	163	3.2%	0	0.0%
坂	75	1.5%	71	1.4%	-4	-5.3%
方田	49	1.0%	45	0.9%	-4	-8.2%
南玉造	288	5.6%	285	5.6%	-3	-1.0%
南中	352	6.8%	334	6.6%	-18	-5.1%
北中・南和田	303	5.9%	312	6.2%	9	3.0%
南借当	15	0.3%	14	0.3%	-1	-6.7%
中村新田・南並木	89	1.7%	86	1.7%	-3	-3.4%
合計	5,145	100.0%	5,053	100.0%	-92	-1.8%

#### ④5地区別の傾向

ここまで見てきた①「地区別の人口分布」、②「地区別の年齢3区分別人口」、③「地区別の世帯分布」について、『多古町都市計画マスタープラン』（平成24年3月）による地区区分（5区分）を用いて、地域ごとの傾向をみると、次のとおりである。

◇地区区分図（5地区） 資料：平成24年3月「多古町都市計画マスタープラン」



1	多古第一地区	多古、島、水戸、千田、林、五反田、染井、喜多、船越、牛尾
2	多古第二地区	飯笹、間倉、一畝田、喜多大原、喜多井野
3	久賀地区	次浦、西古内、御所台、寺作、井戸山、高津原、大高、大門、桧木、出沼、本三倉、谷三倉、十余三
4	常磐地区	川島、東松崎、坂、方田、南玉造
5	中地区	南中、北中、南和田、南借当、南並木、中村新田、東輝、東部

（注）以下より、小学校区を基とした5つの地区に区分。

- 一定の基礎的なサービスを提供する単位
- 社会条件や都市基盤の状況を把握できる単位
- 住民の参加や合意が得られやすい単位
- 地区整備の課題に対応した単位

## ◇人口分布と推移

資料：国勢調査（総務省）

地区名	平成22年		平成27年		増減(平成22-27年)	
	総数	割合	総数	割合	総数	割合
多古第一地区	5,652	35.3%	5,314	36.1%	-338	-6.0%
多古第二地区	1,732	10.8%	1,544	10.5%	-188	-10.9%
久賀地区	3,954	24.7%	3,552	24.1%	-402	-10.2%
常磐地区	2,098	13.1%	1,865	12.7%	-233	-11.1%
中地区	2,566	16.0%	2,449	16.6%	-117	-4.6%

## ◇年齢3区分別人口

資料：国勢調査（総務省）

地区名	総数	年齢3区分			年齢3区分(割合)		
		15歳未満	15-64歳	65歳以上	15歳未満	15-64歳	65歳以上
多古第一地区	5,295	512	3,042	1,741	9.7%	57.5%	32.9%
多古第二地区	1,538	118	899	521	7.7%	58.5%	33.9%
久賀地区	3,549	321	2,056	1,172	9.0%	57.9%	33.0%
常磐地区	1,865	142	942	781	7.6%	50.5%	41.9%
中地区	2,445	291	1,433	721	11.9%	58.6%	29.5%

(注) 平成27年の国勢調査人口から「年齢不詳分」を除いた数値

## ◇世帯分布と推移

資料：国勢調査（総務省）

地区名	平成22年		平成27年		増減(平成22-27年)	
	世帯数	割合	世帯数	割合	世帯数	割合
多古第一地区	1,835	35.7%	1,841	36.4%	6	0.3%
多古第二地区	687	13.4%	640	12.7%	-47	-6.8%
久賀地区	1,268	24.6%	1,239	24.5%	-29	-2.3%
常磐地区	596	11.6%	587	11.6%	-9	-1.5%
中地区	759	14.8%	746	14.8%	-13	-1.7%

すべての地区において人口が減少している中、町の中心部および周辺部に位置する「中地区(-4.6%)」、「多古第一地区(-6.0%)」の減少率は、他の地区と比較して低位にとどまっている。

年齢3区分別人口についても、同地区は、15歳未満人口割合が高く（多古第一地区：9.7%、中地区：11.9%）、65歳以上人口割合が低い（同32.9%、29.5%）。

他方、世帯数は、「多古第一地区」のみ増加し、他の地区は減少している。

これらのことから、公共施設や商業施設、公共交通機関等が集積している町の中心部とその周辺に、次第に人口が集中している傾向がみられる。





## 2. 主要公共施設の立地状況

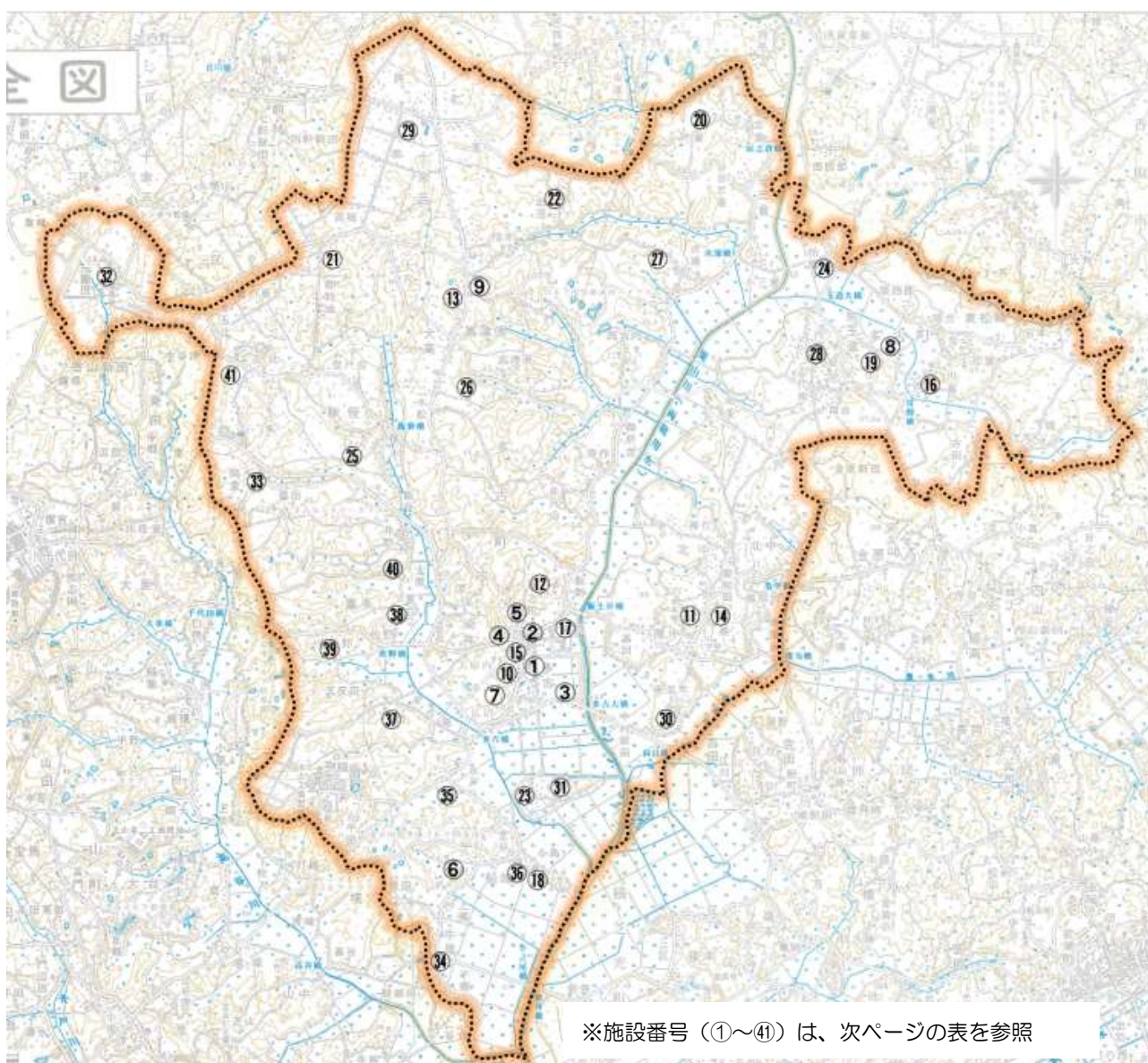
### (1) 町内の主要公共施設の立地

町役場やコミュニティプラザ、図書館をはじめ、多くの町民が利用する公共施設は、主に町の中心部に集積されている。中心部周辺の住民以外が、それらの公共施設を利用するには、自動車や公共交通機関（循環バス）などの交通手段が必要となる立地となっている。

教育関連施設は、こども園が1つ、小学校が4つ、中学校が1つある。統廃合によって、施設数は減少しており、学区・通園エリアは広域化している。

青年館や農村協同館、共同利用施設といった地区住民が利用する施設は、町内各地区に24か所設置されている。

#### ◇主要な公共施設



#### ◇主要な公共施設とその所在地

種 類	施 設 名	住 所
役 場	① 多古町役場	多古584
コミュニティ施設	② 多古町コミュニティプラザ	多古2855
産業振興施設	③ 道の駅多古 あじさい館	多古1069-1
図 書 館	④ 多古町立図書館	多古2540-1
体 育 館 等	⑤ 多古町民体育館	多古3041
	⑥ 多古町民牛尾体育館	牛尾2034-3
こ ども 園	⑦ 多古こども園	多古2000-6
小 学 校	⑧ 常磐小学校	南玉造162
	⑨ 久賀小学校	大門205-6
	⑩ 多古第一小学校	多古2547
	⑪ 中村小学校	南中349-2
中 学 校	⑫ 多古中学校	多古2920
学 童 保 育 所	⑬ 久賀学童保育所(旧久賀幼稚園)	大門204-3
	⑭ 中村学童保育所(旧中幼稚園)	南中365-1
	⑮ 多古学童保育所	多古2540-1
	⑯ 常磐学童保育所	川島199-1
保 健 福 祉 施 設	⑰ 多古町保健福祉センター	多古2848
そ の 他 施 設 ( 青 年 館 )	⑱ 船越青年館	船越2031
	⑲ 南玉造青年館	南玉造1514-1
	⑳ 本三倉青年館	本三倉814
	㉑ 御料地青年館	十余三385
	㉒ 出沼青年館	出沼310
	㉓ 島青年館	島1983
	㉔ 柏熊青年館	南玉造3756
	㉕ 飯笹青年館	飯笹562-1
	㉖ 高津原青年館	高津原4
㉗ 次浦青年館	次浦1853	
そ の 他 施 設 ( 農 村 協 同 館 等 )	㉘ 南玉造農村協同館	南玉造1148-1
	㉙ 十余三農村協同館	十余三267-25
	㉚ 南並木農村協同館	南並木198
	㉛ 多古町農村交流センター	島2317-7
そ の 他 施 設 ( 共 同 利 用 施 設 )	㉜ 一畝田共同利用施設	一畝田292
	㉝ 間倉共同利用施設	間倉233
	㉞ 牛尾共同利用施設	牛尾743
	㉟ 水戸共同利用施設	水戸462-3
	㊱ 船越共同利用施設	船越2040-2
	㊲ 林共同利用施設	林529-1
	㊳ 喜多共同利用施設	喜多921
	㊴ 喜多第2共同利用施設	喜多658-6
	㊵ 喜多第3共同利用施設	喜多大原435-1
	㊶ 五辻共同利用施設	間倉544-159

平成29年4月1日現在

## (2) 町の中心部の各施設等の立地状況

町の中心部には、公共施設のほか、商店街やスーパー、ドラッグストアなどの買い物施設や、多古中央病院をはじめとする医療機関など、日常生活に必要な各種施設も集積している。

また、公共交通機関（路線バス）を利用して、町内から町外へ移動する場合の乗り継ぎの停留所「多古台バスターミナル」もある。



資料：多古町ホームページ